

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	荒木 由紀子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「保育実習指導Ⅰ」及び「保育児童基礎演習」が履修済であること		
7. 講義概要	保育実習指導Ⅰで学んだ実習現場の知識及び保育実習への基本的姿勢・基礎知識を基盤として、「保育実習Ⅱ」に必要な専門知識・保育技術及び関連知識を身につけることをねらいとする。現場での実習の充実を図るため、実習の目的や内容を明確にし、言語化、文章化ができるよう事前準備を行う。具体的な取り組みとしては、保育実習Ⅰ(保育所)の総括・評価を行い、自己の新たな学習目標・課題を明確化する。また、責任実習に向けて指導計画の立案とその相互批評を行い、計画を基にした模擬保育などにより実践力を身につける。実習後には振り返りを行い、保育の担い手としての心構えを今一度明らかにする。		
8. 学習目標	「保育実習指導Ⅱ(保育所)」が終了した時点で、下記目標の達成が期待される。 1. 保育実習の意義と目的を理解し、説明できる。 2. 保育実習Ⅰや他教科の内容との関連性を理解し、説明できる。 3. 保育実習Ⅰの総括・評価を通じて保育実習Ⅱに向けた自己の新たな学習目標・課題が明確化される。 4. 実習に直結する具体的な知識・技能を体得し、保育の実際への理解を深め、実践することができる。 5. 責任実習に向けて指導計画の立案演習と模擬保育により、実習への実践的が高まる。 6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育を総合的に省察する能力が身につく。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	アサイメント 1. 事前学習部分に示された事柄に取り組んで授業に臨むこと。 2. 授業資料を必ず持参して授業に望むこと。時々提出を求める。 3. 責任実習指導案等を、指定された期日までに仕上げ提出し、それに沿って模擬保育を行う。 4. 保育実習で披露する個人制作物を発表する。 レポート課題 1. 「保育実習Ⅱに向けた自己の学習目標と課題」について。 2. その都度、レポート課題を提示するので、常に問題意識をもって授業に臨むこと。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】関口はつ江編著「自分をいかす保育実習ハンドブック」 東京福祉大学編「保育実習の手引」 【参考書】厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館 大豆生田編著「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」 【教材】保育実習Ⅰの実習日誌		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 授業に対する参加態度(出席状況、授業に臨む姿勢、個別学習・グループ学習における課題への取り組み)は意欲的であったか。 2. 提出物の期日は順守できたか、取り組みの内容は十分なものであったか。 3. テーマに沿って分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 ○評定の方法 1. 授業態度(欠席、遅刻、途中退出含む) 50% 2. 提出物(提出期限厳守)とその内容 20% 3. 期末レポート 30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。		
12. 受講生へのメッセージ	保育実習Ⅰの講義および保育実習Ⅰを経験し、自分は何を学んだのか省察し、保育実習Ⅱに際して、自分の課題を明らかにしていく。各保育施設の特徴を踏まえながら、保育の専門家として必要な事柄をこの授業を通して学んでいって欲しい。実習時期等により、講義内容を変更することもある。また多くの現場で取り入れているドキュメンテーションについても学んでいきたい。 遅延の場合は遅延証明書を当日またはメールにて提出すること。遅刻は授業開始から15分以内とする。それ以降は欠席とする。		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。メールでの問い合わせは随時。yukikoaraki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(授業概要と進め方、望ましい学習態度について)。 保育実習Ⅰの省察(実習記録をもとに、グループディスカッションし、実習での問題点を探り、考察をする)キャリア支援室より、配属発表と実習生個人調書配付・説明。	事前学習	各自、「保育実習指導Ⅱ」のノートまたはファイルを用意する。自分の実習記録(日誌)を読み直して、問題点をまとめる。
		事後学習	保育実習Ⅰの反省から、次の実習目標と課題を明確にする。 実習生個人調書の下書きをする。
第2回	実習評価項目からの振り返り。 保育実習Ⅰの省察のグループ発表(問題提起を含む)。各自の必要とする学習課題と内容について討議を行いグループ内でまとめる。	事前学習	第1回授業後の指示された期日までに実習生個人調書の下書きを教員まで提出する。 自身の実習記録の評価内容を振り返り、今後の実習において、特に重点を置いて取り組むことについてまとめてくる。
		事後学習	グループ発表のまとめを行う。

第3回	キャリア支援室より実習生個人調書（清書）の回収。第2回講義に引き続き、各自の学習課題と内容についてグループ学習、発表する。	事前学習	課題に対する具体的な取り組み方法について考えてくる。
		事後学習	明確になった学習課題に向き合い考察を深める。 年齢別の部分指導案の資料を調べ、入手する。
第4回	「保育現場における一日の流れ」を振り返る。 「ドキュメンテーション」について学ぶ。	事前学習	保育現場における一日の流れについて、子どもの視点、保護者の視点、保育者の視点から振り返る。
		事後学習	新たな気づきの視点が保育実習Ⅱでどのように生かされるかを考え、自身の動きと実習記録内容をイメージする。
第5回	年齢に応じた文化教材を作ろう	事前学習	各年齢による発達を調べておく
		事後学習	発表に向けて、個人の文化教材を仕上げておく
第6回	保育現場での子どもの生活、発達を振り返る。 部分・責任実習への構想と考察（グループ学習）	事前学習	年齢別の子どもたちの姿を振り返り、ふさわしい主活動や「朝の会」「帰りの会」について具体的内容を考え、資料を入手する。
		事後学習	グループ発表に向け、指導案の作成をすすめる。
第7回	部分・責任実習への構想と考察 責任実習のための指導案作成練習を行う。（グループ学習）責任実習指導案発表と考察	事前学習	保育実習Ⅰの記録を振り返り、保育実習Ⅱで取り組む具体的内容を明確にする。
		事後学習	グループ内で協議し、お互いの気づきを指導案に生かす。
第8回	グループごと、責任実習指導案発表と考察。 キャリア支援室より、実習記録簿及び必要書類の配布。	事前学習	指導案の保育の流れ、環境構成、準備する内容について確認する。
		事後学習	グループ発表における質疑応答、指摘などから、発表内容を振り返り、実習に向けて改善する。 新たに配られた実習記録簿について、事前に記入すべき箇所を確認し、記入する。
第9回	保育実習Ⅱにむけての学びを振り返る。 実習日誌の書き方 ① — DVD 視聴しながら —	事前学習	教科書の該当部分を読んで、授業に臨む。
		事後学習	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り、どのように書けば良かったのかを省察する。
第10回	保育実習Ⅱにむけての学びを振り返る。 実習日誌の書き方 ② — DVD 視聴しながら —	事前学習	教科書の該当部分を読んで、授業に臨む。
		事後学習	保育実習Ⅰの実習日誌を振り返り、どのように書けば良かったのかを省察する。
第11回	責任実習模擬保育の実践と考察。 登園から降園までの各場面を想定し、模擬保育を行う	事前学習	他グループの発表による学びや、新たな気づきをまとめる。
		事後学習	他グループの発表による学びや、新たな気づきをまとめる。
第12回	責任実習模擬保育の実践と考察。 登園から降園までの各場面を想定し、模擬保育を行う	事前学習	他グループの発表による学びや、新たな気づきをまとめる。
		事後学習	他グループの発表による学びや、新たな気づきをまとめる。
第13回	責任実習模擬保育の実践と考察。 登園から降園までの各場面を想定し、模擬保育を行う	事前学習	他グループの発表による学びや、新たな気づきをまとめる。
		事後学習	他グループの発表による学びや、新たな気づきをまとめる。
第14回	実習におけるマナーとルールを再確認する。 — DVD 視聴 —	事前学習	教科書及び、「保育実習の手引」を読んで授業に臨む。
		事後学習	実習におけるマナーとルールを整理する。
第15回	保育士に求められる専門性と役割について、さらに自分の目指す保育士像について。またどんな保育実践をしたのか、なぜそのように考えるのかを考察し、授業のなかでレポートを作成する。	事前学習	1～14回の授業を通しての学びを踏まえ、保育実習全体を振り返っておく。
		事後学習	保育士を目指す者としての心構えをもう一度確認する。